

Montessori Educare (ファミリーデイケア)

レポート：小玉恵美

★自宅で行う保育

ビクトリアの中心部から2階建てバスに乗り、郊外へいくと閑静な庭つきの戸建て住宅が並ぶ住宅街に、自宅で保育を行っている園がありました。中へ入ると、2階に案内され、暖炉やソファや置物、絵画で飾られた部屋がありました。部屋からは隣のキッチンが少し見えました。

1階に行くと、玄関から入ってすぐの廊下には、さまざまな民族楽器が、子どもの背の高さに置かれていました。6畳2部屋分位のスペースが保育室で、行き来ができるようになっており、それぞれの部屋の棚や壁面には、遊具やポスターや写真などのモンテッソーリ教材が用意されていました。

★この施設の概要

保育日は月曜日～金曜日で、保育時間は8時30分～11時30分です。子どもの人数は、最大7名（※B.C.州のルールでは、3歳以上は7人につき1人、3歳未満は4人につき1人、0歳児は3人につき1人の保育者がつくことになっています。また、自宅で行う保育では、他の保育者を雇うことができませんが、特別な行事がある時のみ、手伝ってもらうために他の保育者が来ることはできます）。この日は園長先生とイタリア人の先生がいらっしゃいました。

2歳半から5歳までの子どもを対象としたプリスクールです。この園では週2、3、5回の保育日数を選ぶことができます。おやつは持参します。その内容はコンテナに入れてゴミが出ないようにすることが基本で、野菜、クラッカー、チーズなどの栄養のあるもの、健康に良いものとしています。

園長先生はペルー人の方で、2つの園を経



営しており、もう1つの園は、8:30～16:30の一日保育で、午前中にモンテッソーリ教育を、午後は「ラッカーサ（イタリア語で‘家’という意味）」という概念で、他の遊びを行っています。また、一日なのでお昼寝や休息の時間があります（※B.C.州のルールでは食べること、寝ること、排泄に関しては、子どもたちに強要できないことになっているので、保育者は子どもをサポートし、手伝っただけです）。

この園は、午前のみですが、週2日で月300ドル（約2.4万円）、週3日で月450ドル（約3.6万円）、週5日で月750ドル（約6万円）となっています。その他、登録料50ドル（約4,000円）と初期納入料200ドル（約1.6万円）が必要です。

★主な1日の流れ

8:00～10:00 (10:15) 登園／プレイタイム (Working time) で、室内で子どもたちが自分で教材を選んで決めて遊ぶ時間があり、10:00 (10:15) ～11:00 おやつ／片づけ／サークルタイム、11:00～11:30 外遊び／降園となっています。

★モンテッソーリ教育を取り入れた保育

小さい施設でモンテッソーリを行っているのは、B.C.州やカナダでもこの園だけです。大きな園でモンテッソーリ教育を行ってきた園長先生の選択で、小規模の形態を選んだそうです。

モンテッソーリ教育は、子どもたちは自由で、用意された環境（教材）の中で、自分で自由に選んで好きなことをやるのが基本です。勉強ではなく、知識と経験を身につけるトレーニングで、経験すること、感じることを、物事を知ることが大事だそうです。また、全ての物に関しても、尊敬、尊重をもって物を扱うことも子どもたちに教えて、学んでいくそうです。

例えば、地球の大陸をテーマにした教材をもとにして作られた、3歳の子どもの作品も飾られていました。地球の円と大陸の形に切って用意された紙を使い、色分けされた大陸の教材を自分で見て確認しながら、形と色を合わせて、絵の具で色を塗り、「ここにあるんだよ」と伝えながら、のりで貼っていき作品を完成させるそうです。

モンテッソーリの施設を開くには、幼児教育の資格を取得してから、モンテッソーリの学校に2年間通い、その資格を取得することが必要とのことでした。

★多国籍文化の子どもたちが通う

カナダには、さまざまな文化の背景があります。おやつを例に見てみると、日本人ならきれいに野菜や果物をコンテナに詰めて持ってきたり、中国人なら麺やヌードルを持ってきたりします。すると、他の子どもたちがいろいろな文化の食べ物のおいさを「くさい！」と言ったりすることも多いので、文化を学ぶ機会ととらえて、食べ物には、いろいろなおいや食べ物があることを教えるようにしているそうです。

また、「くさい！」と言われた子どもは6カ月位経つと、他の子どもと同じようにカナ

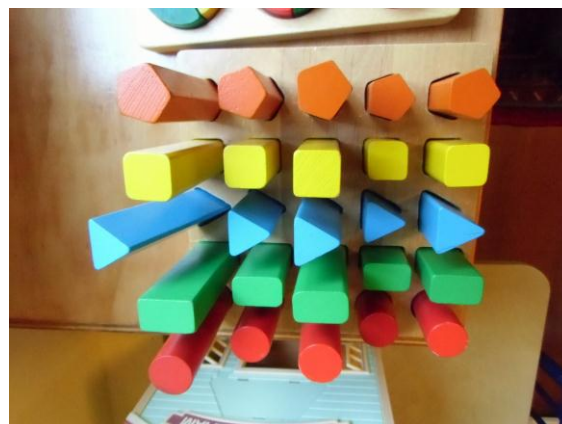


ダ人らしく、果物と野菜、チーズ、クラッカーに変わっていくことが多いようです。食文化を大事にしましょうと子どもたちに伝えても、最後にはどうしてもみんなと同じものを、子どもたちは選ぶとのことでした。

モンテッソーリの教えに沿って保育していますが、インターナショナルなので、いろいろな国の文化や食べ物、ダンスなどを、月によって1つずつ大陸を選んで、通年を通して勉強していきます。今年は、南アメリカをやっています。

例えば、サークルタイムでは壁面にアフリカのものを貼って分かるようにします。そして、アフリカの人は、どんな洋服を着て、どんなものを食べて、手を洗うにしても水があまりないので、どのようにしているのか、おもちゃもあまりないけれど、サッカーをして遊んでいるが、ボールがない時には、ひもを使って自分たちで丸いボールを作って遊んでいることなどの話をするそうです。

この他、その月はアフリカの話をするこ



になっているので、保護者の方がおうちでアフリカの絵本を読んだり、その月末には保護者の方がアフリカ料理のレシピをインターネットで調べて、料理を作って持ってきて、園でご飯をみんなで食べたり、アフリカの方を知っている人がいたら、その方を招待して、お話をしてもらったりすることもあるようです。

★園長先生の話より

もともとイタリアのモンテッソーリ教育は、いつでも子どもが外に行けるようにドアがあって、遊びたい時に外で遊べるようになっているが、カナダというこのような場所だと、いつでも外に遊びに行くことができないので、時間を決めて外遊びができるようにしているとのことでした。理由まで質問できませんでしたが、カナダでは小学生まで送迎は必ず両親がすることになっているので、この事が関係しているのかもしれませんが。また、雨の日は室内で遊んでいるそうです。

この園に子どもを預けている家庭の多くは、両親のうち片親だけが働き、1人は働かないことが多いそうです。子どもを園に預けている間は、エクササイズに行ったり、自分の時間を楽しんだりしてから子どもを迎えに行く母親が多いとのことでした。そのため、ある程度の収入がないとモンテッソーリの園に通わせることはできません。一日保育の場合で、保育料は月 900～1000 ドル（約 7～8 万円）と高額なので、週の保育日数を選択できるようになっているそうです。

★最後に

日本にもモンテッソーリ教育を取り入れている園があります。カナダでもモンテッソーリ教育を行っている園がありますが、この園長先生は、自ら小さい規模の形態を選択して、子どもたちに注意を払ってその教育を行っていきたいという熱意ある方でした。

モンテッソーリ教育の場合は、子どもを週

末に預けなければいけない位なら、子どもは持たない方がいいという考えがあるそうです。

しかし、ファミリーデイケアは、週末に保育を行っているところはほとんどありませんが、どうしてもという親の希望で、可能な範囲で土日に保育を行っているところもあります。個人が運営しているので曜日や時間に融通性があり、仕事を持つ親への支えにつながっているようです。

